

作 板垣けんじ



# キエーちがえ ねんど研!

北九州算数サークル

①



①の裏 (前の説明とのキューちゃんのギャップ)

ヒヒヒヒヒヒヒッ

実は、キューちゃんの隠された趣味が

「僕は、この油粘土が大好きなんだキュー。」

「この、ぬるぬる感・・・、触った後のおい・・・、  
べとべとした感じ・・・机がぬるぬるする・・・

もう、この油粘土が好きで好きでたまらないきゅー。 あー、楽しい  
キュー。」

しかも、この粘土、実はもう買って二十年ぐらいたっていて、  
ちょっと変色しているんです。

「あー、このくねくね感たまらないキュー。」

さわやかなキューちゃんだね？

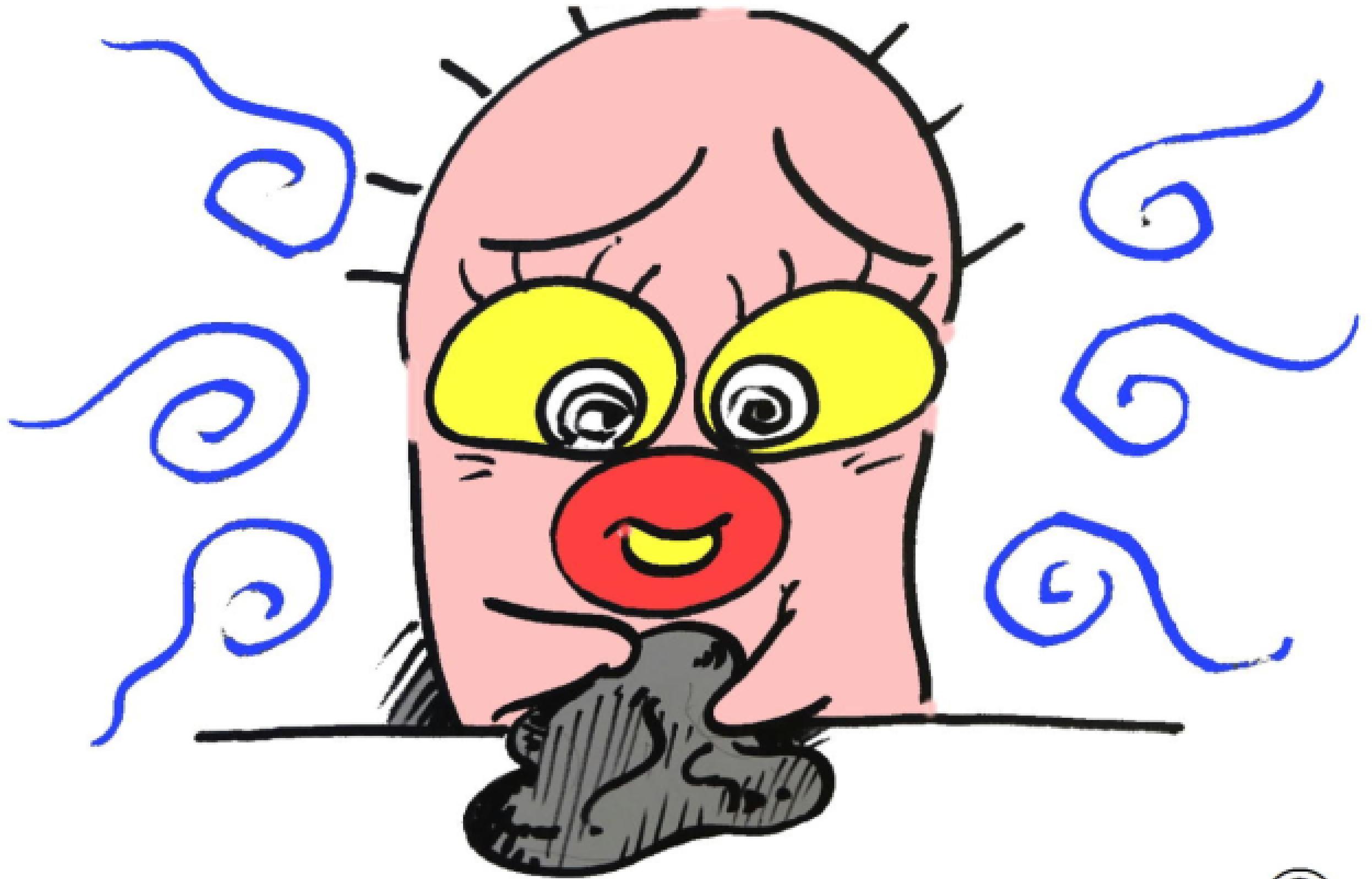
子どもたちに聞く

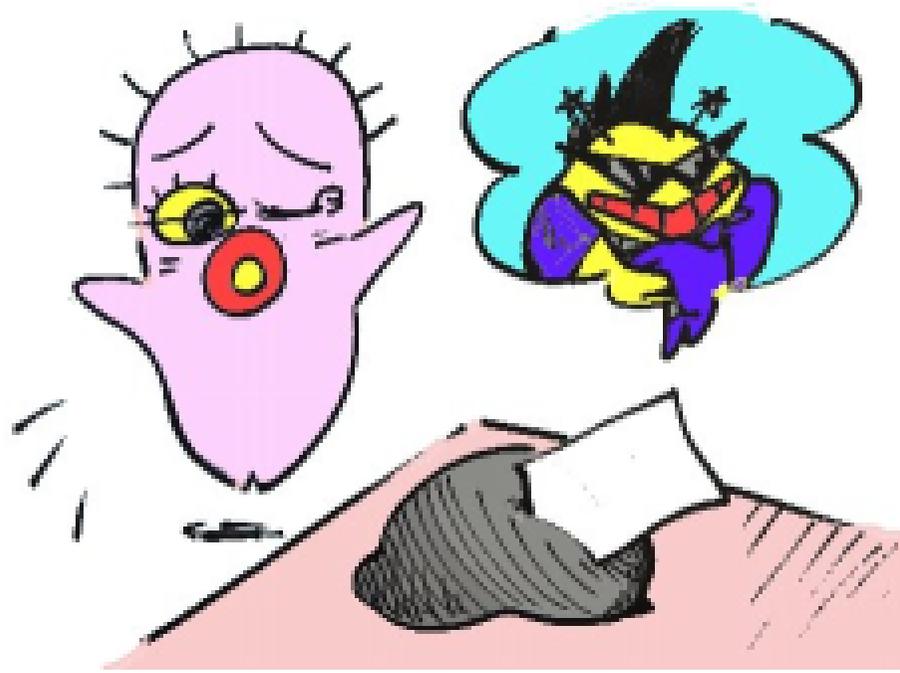
「油粘土好き？ 最近油粘土ってさわったことある？」

「油粘土って、触った後手を洗わないといけないしね。爪の間  
に入ると絶対にとれないしね。」

(声をしっかり上げて) でも、キューちゃんはそんな油粘土が  
大好きなんです。特に、この油粘土はお気に入りです。

さー。キューちゃん次の日「今日も、油粘土に、一日たっぷり  
楽しむぞ」と思って、朝起きてやってきました。(紙芝居を抜きながら)



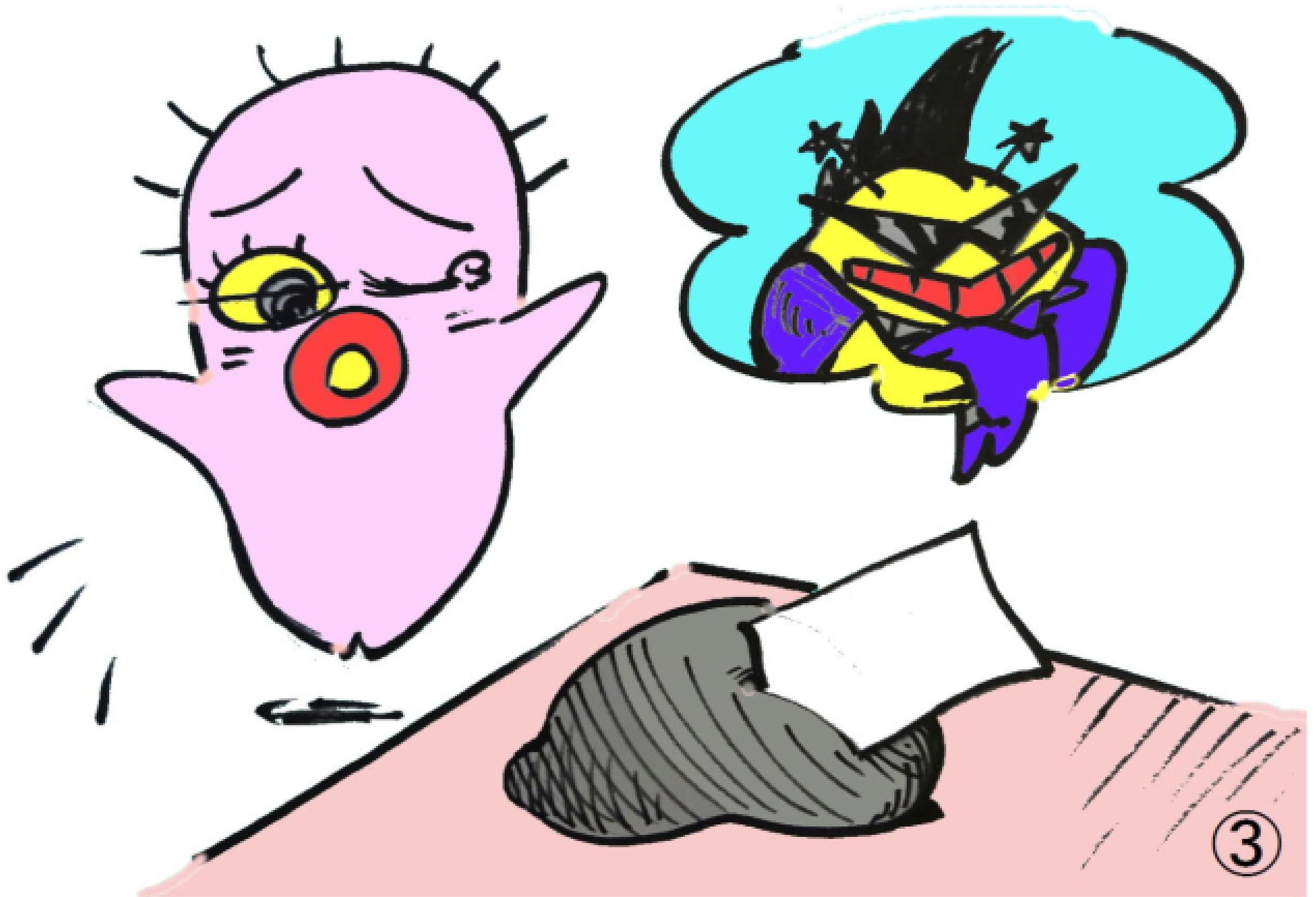


②の裏 すると，ご自慢の油粘土にカードが突き刺さっています。

「やややっ，なんだこれは？」

実は，近所でも有名な粘土マニアの粘土泥棒からの，犯行予告だったのです。

カードを見るとこう書いてありました。（引く）





### ③の裏

「ふふふ・・・。キューちゃんの粘土の [ ] (無言) をもらうぞ。これ、何かわかる？ といって [ ] を指さす。

棒が、引っ張ってこうあると、ここに何が入りそう？  
算数で、出てきて、棒が引っ張って上下に分かれるのは、  
分数だね。

キューちゃんの粘土の (無言 指さしながら) をもらうぞ。そういう粘土泥棒からの犯行予告があった。これは、大変。キューちゃんの至福の時間が奪われてしまうかもしれない。でも、全部もらうとは、言ってない。粘土泥棒はいいだけうばおうとしているのでしょうか。(紙芝居をおいて)、そこで、みんなに今日は、キューちゃんではなく、この粘土泥棒になってもらいます。

犯行予告をしてほしいので、(封筒に3分の1)一枚ずつ班で引いてもらいます。それでいいの？ 人生もうちょっと考えた方がいいぞ？ それは、一番よくないかも といいいながら引かせる。何を引いたか言ってみて。6分の5 5分の3 3分の2 5分の4 一人一人犯行予告が違うね。いってみてくれる？ この中を変えてキューちゃんの粘土の6分の5をもらうぞ

5分の3 3分の2 5分の4

今から、キューちゃんのぎとぎとの油粘土から、その分数だけとってほしいんです。(下から、粘土の塊を取り出す。)好きなだけ、粘土を取りに来て、とったら、一つにしてね。それは、キューちゃんのねんど。重さを計っておこう。4分の3だけとろうとしたらどうなる 4等分して3つ分とるいいね。やってみよう。

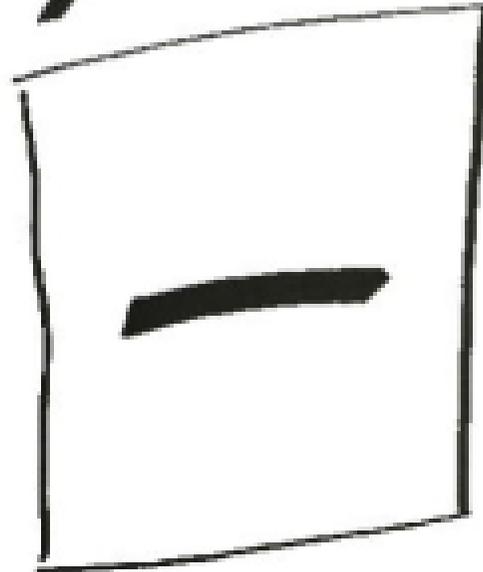
#### 1 分数を取り出せゲーム

- 1 分数カードを引く
- 2 粘土を好きなだけとる。  
(キューちゃんの持っている粘土の量となる)
- 3 重さを計る。
- 4 指定されたカード分だけとる。たとえば6分の5  
その重さを計る。
- 5 計算で出してみる。  
6つに分けた(÷6)  
5つ分(×5)
- 6 計算した重さと、計った重さの誤差の少ない班が勝ち。

キョーちゃんの

ねん土の

ちゅうぞう!!



き





#### ④の裏

あー。僕の粘土いったい どれだけとられちゃうんだろう。

心配だキュー。」

心配するのそこかね。とれられるのが心配なのよね。キューちゃんは、自分の粘土がどれだけとられるのかが心配です。さあ、みんな、できるだけ正確に正確に。分数の粘土を作ってください。5分でいいかな。

黒板に 何等分を目指したかな

六等分したというのは、算数の言葉でいうと $\div 6$ だ。というよ

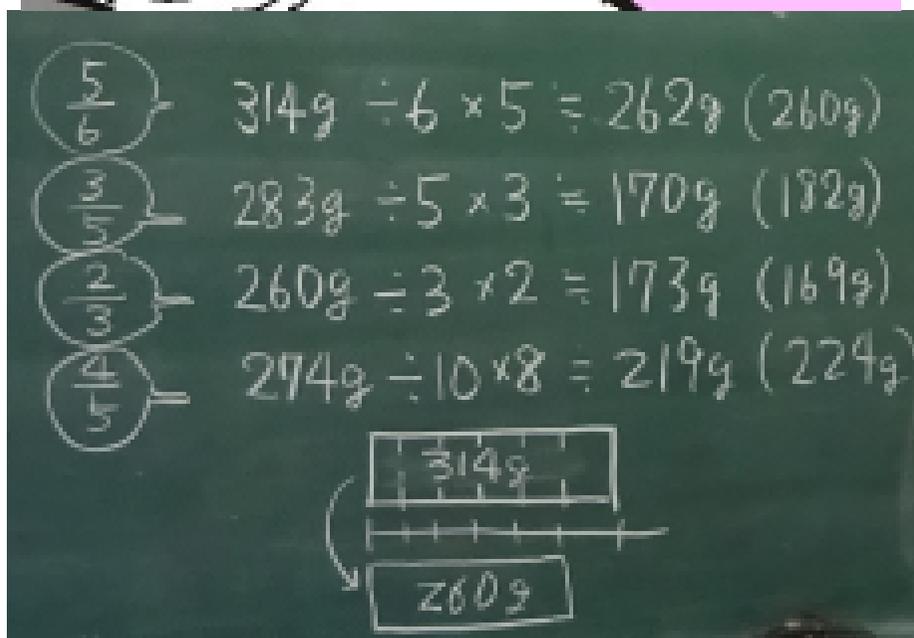
うにまず、 $\div 0$ をだす。

次に、六等分しただけではだめだよ。それを、5個集める。それを算数の言葉でいうと $\times 5$ というように、 $\times 0$ とだしていく。計算したら、みんなの答えになるはず。電卓で計算しよう。( )が、はかりで計ったもの。

話を戻す。紙芝居を持って

「粘土泥棒さん、そんなに粘土をとっていかないでよ。」と頼みました。すると、粘土泥棒さん、「いやすばらしい、適当にいったんだけどそんなに正確に粘土を取り出してくれるなんて。君たちも、ぜひ粘土泥棒になってくれたまえ。」とスカウトされました。

しかし、そんなわけにはいきません。それは、断るよといった次の日のことです。





⑤ の 裏



朝起きると，また，キューちゃんの大事な油粘土に謎のカードが刺さっているではありませんか。

ふーん。また，カードだ！（怒って）また，あいつ泥棒しようというのか。

（小さく）と思ったら，そうじゃなかったんですね。

昨日の，この正確さに（かけ算の結果を模造紙などで残しておく）感動して，キューちゃんの粘土になんと，ちょっと増やしてくれたんです。

増やしたいですか？ さあ，そのカードには，こう書いてありました。



キューちゃん  
ねん土をふやして  
きのうの  $\frac{1}{5}$  に  
してあげたよ



## 2 昨日にもどそうゲーム

- 1 分数カードを引く
- 2 粘土を好きなだけとる。  
(キューちゃんの増やされた粘土の量となる)
- 3 重さを計る。
- 4 指定されたカード分だけとる。たとえば  $\frac{3}{4}$   
その重さを計る。
- 5 計算で出してみる。  
4つに分けた ( $\div 4$ )  
3つ分 ( $\times 3$ )
- 6 計算した重さと、計った重さの誤差の少ない班が勝ち。

## ⑥ の裏

「キューちゃん。粘土を増やしてあげる。  
昨日の、 $\frac{1}{5}$  にしてあげたよ。」

はい、ここには何が入るでしょうか。分数ですね。

これ、どういうことかな。手元にある粘土をひとかたまりにしてください。紙芝居を置く。

昨日は、粘土を泥棒にとられちゃいそうになりました。でも、今度は、泥棒さんなのに粘土を増やしてくれた。ねえ、粘土を増やしてみたい？ ふやしたい？ お話の流れから、粘土を増やした方がいいからね。とって、粘土を増やしていく。粘土増えましたね。キューちゃんの粘土、昨日より増えちゃった。どれだけ、増やしたのか。カードを取らせる。

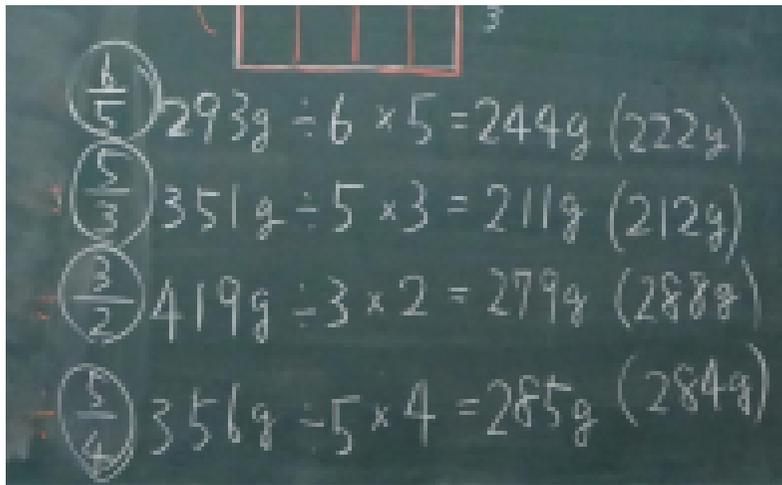
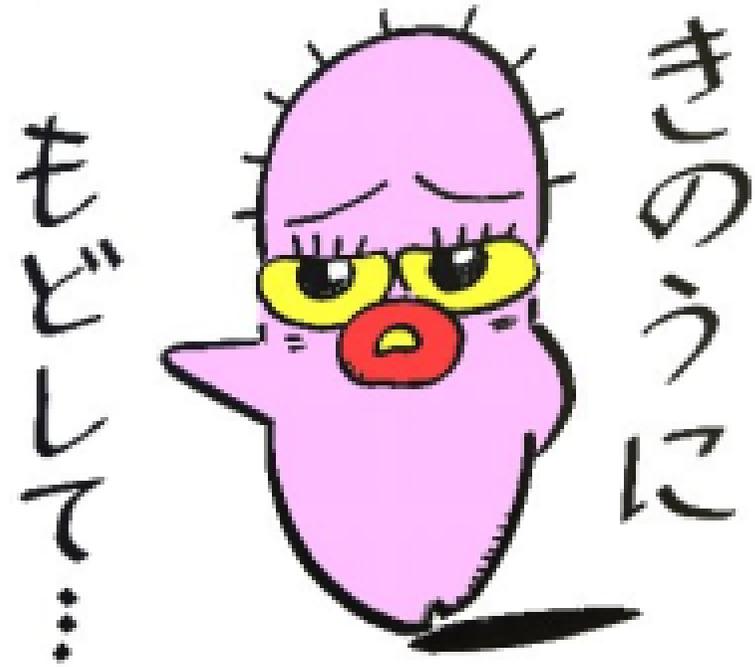
読んでみよう

キューちゃん粘土を増やして、昨日の  $\frac{4}{5}$  にしてあげたよ。  
と次々という。

次、げーむ 2 昨日は、〇〇班が優勝したけど、今日はどうか。今回も正確にしてもらいたいんだけど。

キューちゃん  
ねん土をぶちして  
きのうのーに  
してあげたよ



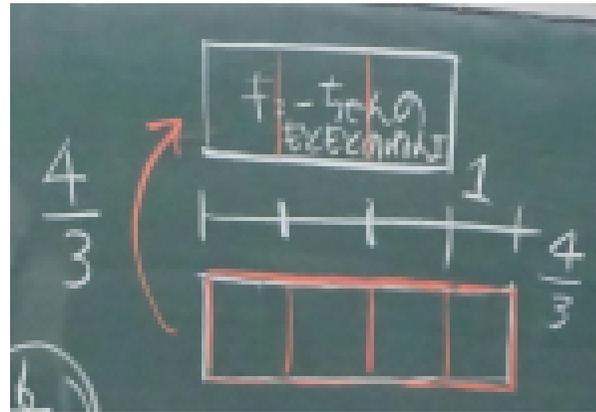


### ⑦の裏

きゅうちゃん、実は、なんだか気持ち悪い。「僕の粘土は、やっぱり僕の粘土。泥棒さんが勝手に付け加えたんじゃないやだから、昨日にもどしてほしいだきゅう。」

そういうことで、増えた粘土を減らしてほしい。だから、昨日の粘土にもどしてほしい。

もし、3分の4だったら、どうなるかな。とってテープ図を書いて説明する。



4等分して、3つ分集める

結果、昨日やったのは、かけ算。

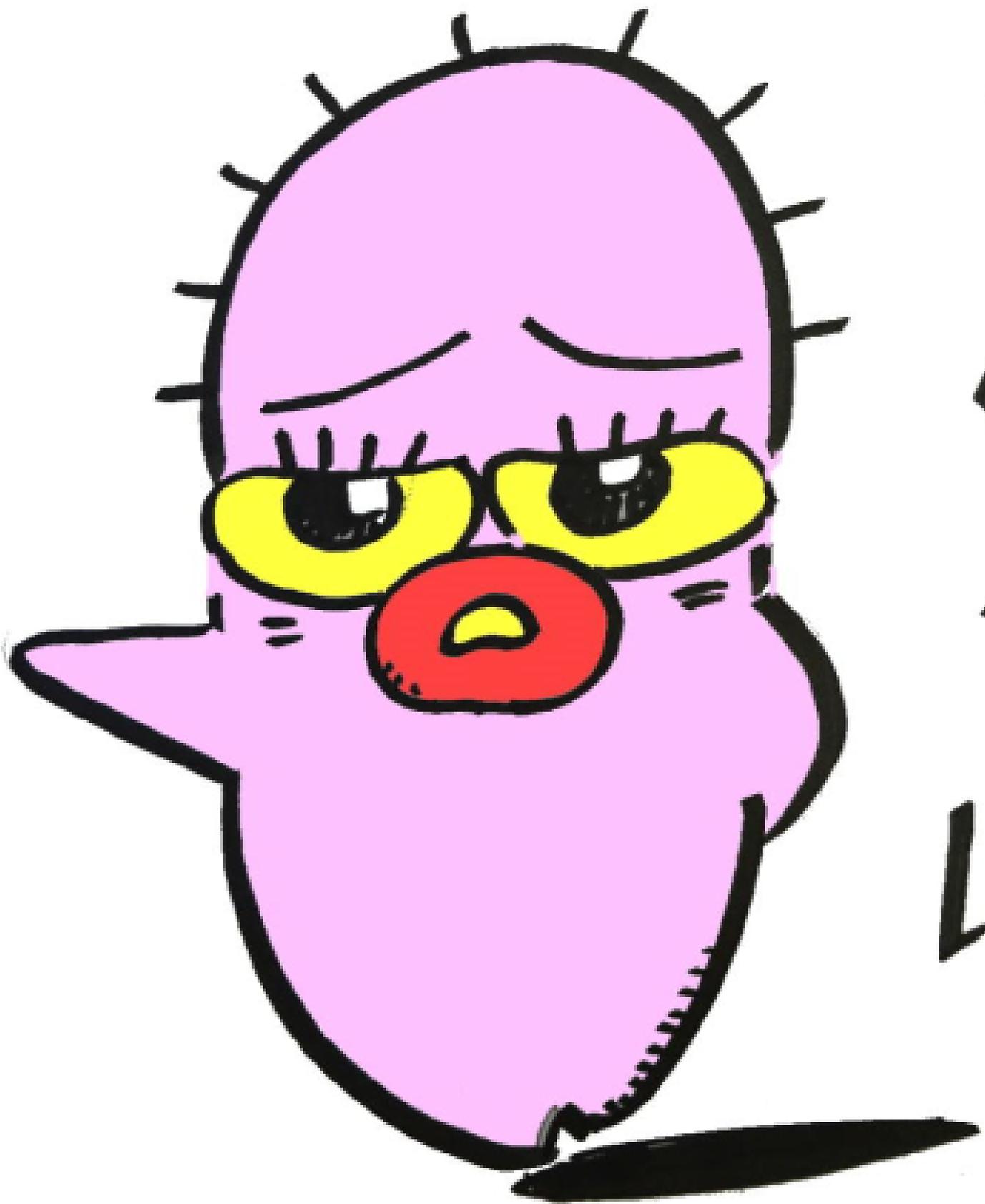
結果、反対にしてかけているね。今日やったのをこれを分数の割り算。

### 紙芝居に戻る

キューちゃん、「昨日に戻してくれてありがとう」

あれから、二人、どうなったかということ

かーとミッ  
...



おのくに  
...



⑧ の裏

僕たち，仲のいい粘土マニアになりました。  
ひっくり返したり，戻したり  
ひっくり返したり，戻したりしながら  
二人でいつまでも，油粘土で手がぎとぎとになるまで楽しく遊び  
ましたとさ。





9 の裏

キューちゃんと粘土泥棒 おはなしのはじまりです。

いつも，板垣先生が紙芝居を作るときには，キューちゃんというキャラクターが登場します。

とってもさわやかで，かわいくて あかるくて  
ちょっとドジだけど，にくめない 楽しい性格です。

さあ，きょうは，どんなキューちゃんかな？

(引きながら) 今日もさわやかなキューちゃんです。